



比田勝市政2期目始動

しましま 対馬を知り、豊かな対馬を創る

3月1日に行われた対馬市長選挙で再選を果たし、2期目をスタートさせた比田勝尚喜市長。市長としての4年間を振り返り、これからの市政運営の在り方などについてインタビューしました。

1期目を振り返る前に市民の皆さんに市長の人柄などを知っていただきたいと思いますので、まずは、どんな少年だったのかを教えてください。

自分でいうのもなんですが、優しい少年でした。動物を飼うのが好きで、犬とか鳩とかジュウシマツなどたくさんの動物を飼っていて、世話をするのが大好きだったものですから、将来はペットを診る獣医さんになりたいと思った時期もありました。

実家が農林業だったこともあって、高校は島外の農業高校に進学しました。実業を学ぶ高校に進学した理由は、普通科の高校だと、大学進学後に島外で就職して、対馬に帰らないのではと心配する父や親類の思いが強く、失望させたくなかったからですね。そして、私は、農業よりも土木に興味をもっていたので、農業土木の分野を学ぶことにしました。

高校・短大に進学されたわけですが、卒業後に対馬にすぐに戻られたのですか？

短大に進学し造園について学ぶ事にした私は、卒業してもすぐには対馬に戻らず、福岡の造園土木会社に就職しました。もっと修行を積みたと思っていましたから。どうせ対馬に帰るなら、この経験を生かして、対馬で起業できればと思っていました。しかし、祖母が病気になり「お見舞ついでに、対馬で就職試験を受けてみなさい」と父から勧められて受けたのが、上対馬町役場です。

上対馬町役場に採用されてからどんなお仕事をされていたのですか？

それまで携わっていた造園土木の仕事を生かして、公共施設の設計などの仕事に携わりました。故郷の街づくりに関わることができて、とてもやりがいがある仕事をさせていただいたと思っています。その中で今も心に残っているのは、鳴滝自然公園の整備ですね。滝まで行く遊歩道に、1本の木が斜めに生えているのですが、それは私があえて残した木なんです。

当時の上司からは、なぜこんなものを残しているのかと、再三切るように言われたのですが、私は残したいと言って聞かなかったんです。滝へと向かうときに、この木の先から階段になっ



上対馬町役場時代、あえて残した鳴滝自然公園の木

ていて危ないので、注意を促す意味で残したんです。この場所をデートする若者が、話に夢中になって転んだりする前に、その木にぶつかったら気を付けるでしょう（笑）

1期目の市長という立場をどのように感じられましたか？

私自身、職員として、また副市長として町長と市長に仕えてきました。市長という立場に立った時、外からの見た目より、市長という仕事は孤独だと感じました。いろいろな場面で相談できるところはありますが、最終判断は自ら行います。そういう意味では孤独なのですが、その決断を行う上で対馬をよくするためにはどうしたらよいのかと純粋に向き合えることができるのも、市長という立場だと思います。

そんな中で、対馬に対して強く感じるのは、対馬の地理的な特徴を、最大限生かすことができる産業や環境を整えなくてはいけないということです。これまで、対馬の基幹産業である水産業も、韓国からの観光客が右肩上がりに増えたことも、地理的な要因が大きく作用しています。片や島外から企業を誘致するとき、海上運賃等の部分がネックになったり、若者が対馬に残れない流れがあるのもそうです。良い意味でも悪い意味でも、対馬の特徴であり、その部分を活かし、有効利用しながら、問題点は改善することが、私にとっての仕事といえます。

(次ページに続く)

1期目に市長が取り組まれた施策の成果は？

離島自治体や国会議員など多くの方の尽力で成立した有人国境離島法によって、島内在住者の運賃低廉化をはじめとする様々な施策が実現できたことは、対馬が大きく成長できた要因だと思います。また、北部対馬地域の皆さんが待ち望んだ、国際航路への国内客の混乗が実現できたことも、住民の利便性向上と併せて、交流人口の拡大に貢献できたと考えています。



混乗便に乗り込む住民

就任当初から進めてきた、ふるさと納税の返礼品事業では、全国の皆様からの寄付をいただき、令和元年度は2億2千万円に届きそうな状況になりました。寄付額もさることながら、返礼品を通して、対馬をアピールできたことや、返礼品の提供事業に関わる人が増え、新しい会社が誕生したことに成果を感じています。



返礼品開始に伴う納税第1号者 御手洗典子さんを訪問

就任して3年までは、先ほど挙げた成果によって、人口の社会減（転入と転出の差）の縮小、Uターンによる移住者の増加など、喜ぶことが多かったのですが、昨年は50年に1度の大雨に3度も見舞われ、大きな台風も襲来しました。産業では、基幹産業である水産業の不振、そし

て韓国人観光客の激減や新たな感染症の問題などが対馬を襲いました。

水産業の不振については、県や漁協などと一緒になって、漁業者の支援や資源保護について取り組んでおり、気候の変化に対しては、市として取り組める環境対策ということで、焼却する際の環境負荷の低減を図るために、生ごみの分別回収を進めています。

観光産業については「近い・安い」という地理的なメリットで多くの韓国人観光客に来ていただいておりますが、今、それ以外の魅力を育てることで、多くの国からの外国人観光客の誘客や、国内観光客の誘客に向けた取り組みを行っています。対馬の魅力を最大限生かし「癒し」を提供できるハード面の整備はもちろん、私たち自身に、おもてなしの心を育むことができるような取り組みを行っています。

2期目の市政についてどのようにお考えですか？

九州大学が発表している「新国富指標」は、九州の自治体が持つ道路や設備、人口、森林面積や漁獲量など地域の資産に換算して金額で示しているのですが、驚くことに対馬市は5518万円で九州・沖縄の274自治体の中でトップなんです。経済活動だけでは測ることができない「豊かさ」が対馬にはあります。その部分を最大限磨き上げていくことで、対馬を輝かせていきたいと考えています。

対馬の自然の恩恵を受けてきた農林業や水産業に関しては、そこに観光との組み合わせができないだろうかと思っています。対馬の豊かな恵みを、ただ消費地へ送るだけでなく、対馬を訪れた人たちに体験してもらうことで、対馬の豊かさに触れてもらうことができるのではないかと思います。

現在の厳しい社会情勢によって人口が減っていた社会減も、少しずつ改善されてきている状況です。これまであったものを組み合わせ、新たなものを生み出すことでこの難局を乗り切ることができればと、取り組みを行っているところです。

そのためには、これまでの考え方を変えていかなければいけません。私自身も、長く対馬にいて見えない対馬の本質もあるので、島

の外から訪れた島おこし協働隊や域学連携で対馬に来る若者などからの貴重な意見を大切にしないといけないとも思っていますし、これからもいろんな方にご意見をいただきながら、対馬の生きる道を探っていきたいと思っています。

市長の政治に対する姿勢は「守破離」^{しゅはり} 1本だと聞いていますが、どのような意味なのでしょう
うか？

守破離とは、剣道などで使われる言葉で修行の流れについて表したものです。「守」とは師の教えを守り、「破」は他の師や流派の良い部分を取り入れて成長することとされています。私も、副市長を経験し、行政運営に関しての基本や応用はできたと思っています。まだまだという部分もあるかもしれませんが、時間は限られています。この2期目では、自らの境地を開き、自分なりの取り組みを行っていきます。どうすれば対馬をより活性化できるかを、対馬の豊かな自然や、地理的要因を糧にし、そこに新たな視点で息を吹き込みながら、さらなる飛躍を目指していきたいと考えています。

それでは最後に、市民の皆さんへひとつお願いします。

私たちが住んでいる対馬、皆さんにはどのように映っていますか？対馬の良さをどんどん見つけてください。街づくりは、行政だけ、議会だけではできません。皆さんお一人お一人と、豊かな対馬を創っていこうという気持ちで「OneTeam」で市政に取り組んでまいります。

4月27日、月曜日に開会される対馬市議会臨時会において、所信表明を行います。対馬市CATVでの生放送や広報つしま5月号にも掲載しますので、ぜひご覧ください。



市長が掲げる5つの拡大戦略

1. 働く —産業・所得の拡大—

- 異業種間交流による産業の連携
- 高齢者の知恵と若者の力を結集した6次産業化の推進
- 魅力ある一次産業（農林水産業）の推進と後継者対策
- 有人国境離島法の有効活用・推進
- 若年層や高齢者の雇用促進対策の推進

2. 迎える —交流人口の拡大—

- 持続可能な観光地づくり（歴史×食×観光）
- 観光基盤施設の充実と「おもてなし」の醸成
- 国内外からバランスのとれた交流施策
- 島外来訪者の交通費割引制度の導入
- 人口減少対策&雇用確保のための創業支援
- 浅茅湾と和多都美神社を核とした観光開発

3. 整える —快適生活環境の拡大—

- 道路&生活基盤の整備拡充
- 出産、子育て支援制度の拡充
- 空き家、古民家の活用による地域活性化策の推進
- エネルギー自立の島づくり
- 比田勝港と巖原港の連携統合した港づくり
- 対馬空港の滑走路延長

4. 健やか —健康・福祉—

- 市内診療所の医療体制の充実
- 安心安全な老後のための地域包括ケアシステムの充実
- シルバー人材センターの全島の拡大と活用
- 高齢者見守りネットワークの促進
- 高齢者社会に対応した健康スポーツ活動の推進

5. 育てる —人づくり・教育の拡大—

- 域学連携によるグローバルな視野と行動力を持った人材の育成
- 大学等のサテライトキャンパスの誘致
- 島内外の人材活用による島の活性化
- ICT教育の拡充による小規模学校の充実
- 夢づくり基金を活用したスポーツ、文化交流の支援
- 対馬を自慢できる郷土愛に満ちた子どもの育成